

9月2日（月）全校朝の会「平和の尊さを考える」

学校長から、全校朝会で「平和の尊さを考える」の話がありました。

8月30日に、日本赤十字社の方が、防災についてお話してくださいました。台風も、とても心配だったこともあって、みなさん真剣に聞いていましたね。学習してから、家族の方と、防災についてお話しした人は、手を挙げましょう。これから、命を守るために、どんなことができるのかを考えていきましょう。

始業式の日、横断幕を披露しましたが、計画委員会のみなさんが、正門前に飾ってくれました。計画委員さんを中心に、みなさんで、150周年記念事業に向けて、盛り上げていきましょう。

さて、今日は、平和についてお話ししたいと思います。今年は、平和の祭典オリンピックが、パリで行われ、パラリンピックも行われている最中ですね。しかし、世界各地で、戦争は、まだ、続いています。たくさんの人々の命が失われ、本当に悲しいことです。

79年前に、日本にも広島と長崎に原子爆弾が落とされ今年も平和記念式典が行われました。校長先生も8月3日に、當麻文化会館で戦争を体験された藤野高明さんのお話をお聞きしました。小中学生も含めて約100人の方が聞きにいられていました。

藤野高明さんは、今年で85歳になられます。終戦翌年の昭和21年7月、小川で乾電池のような筒を拾い、触っていたら爆発が起きました。爆弾が爆発しないまま残っていた不発弾が、爆発したのです。当時5歳の弟さんは即死。7歳だった藤野さんは視力と手指を失いました。

学校に通うことができず、通院が続き、地元の盲学校で勉強したいと思いましたが、目も不自由で、両手首を失ったことを理由に学校にも通えませんでした。悲しみや失望の中で、ハンセン病患者の作家、北条民雄の著書「いのちの初夜」という本に出合います。唇や舌で点字を読むハンセン病患者がいて、同じ入院患者の盲学校の生徒に教わって点字を学びました。藤野さんは、点字を唇で読むと、最初はザラザラとツルツルしかわからなかった点字を、唇の上の何ミリかという感覚部分で際限なくなぞっていくうち、やがて、いくつかの文字が浮かぶようにわかってきたそうです。そして、国語や算数の勉強に夢中になりました。

「メモができる、ノートもとれる。夢が持てるようになった」。文字の獲得は「学校に通う」という次の目標につながりました。20歳のとき、受験を認めてくれた大阪市立盲学校（当時）に中学2年生として入学。「勉強ができるのは、まるで天国のようだった」と語っておられました。卒業後は通信制の大学で学びました。努力を積み重ねられ、点字での試験で、大阪市立

盲学校の社会科教員になり、約30年務め、大勢の生徒を送り出されました。藤野さんは、「今の平和はすばらしい。戦争は起こしてはいけない。」と、訴えておられました。みなさんにも、平和への思いをつないでほしいと思います。

8月6日の平和の誓いで、6年生の子どもたちが、次のように語っています。

『一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。』

図書室にも、平和、命の大切さをテーマにした本のコーナーを設けました。本を読んで、考えたことを、友達や先生、校長先生にも伝えてほしいです。

これからの学習の中で、平和への思い、平和の尊さについてしっかりと考えていきましょう。



↑ 校長室前に、平和について書かれた新聞記事を掲示しています。



↑ 図書室には、平和をテーマにしたコーナーを設けました。